

損保ジャパンのみなさんに訴えます

小畑さんの再雇用実現を！

今年3月末、会社に再雇用を求めたにもかかわらず拒否された小畑裕久さん（元：大阪SC第1業務部火新第2SC課）を支え、その思いを実現させたいと、いま多くの方が声をかけ、力を寄せていただいています。

「職場復帰を実現する会」

結成総会に72名の参加者が

「小畑裕久さんの職場（損保ジャパン）復帰を実現する会」の結成総会が4月24日（水）開催されました。天候の悪い中ではありましたが、現役・OBあわせて72名の方に駆けつけていただきました。



誇りをもって働くために…



総会では、小畑さんが再雇用されずに定年退職を迎えざるを得なかった経緯などが報告されました。

小畑さんの人柄、能力を称える声や、損保の職場状況についての発言が続き、みんなで力を合わせてたたかっていこうという決意がこめられたものでした。

損保産業は「一人は万人のために、万人は一人のために」を精神としている社会公共性の高い産業です。

NKS Jグループでは今後3年間で4,800人もの人員削減がマスコミ発表されています。これまでの損保ジャパンでの「希望退職」募集では、多くの仲間に対して「退職強要」が行われ、不本意に退職させられた仲間が数多く出ています。

どの職場も、ギリギリの要員で仕事をこなしている今、このような会社のやり方に、疑問や不安・戸惑い、そして怒りが渦巻いています。

行き過ぎた「合理化」の帰結は…

行き過ぎた「合理化」の教訓が、2005年4月のJR西日本脱線事故です。JR東日本で15%、東海5%に対して、西日本は36%もの人減らしをしていました。さらに、運転士を「日勤教育」でしめつけ、無理な運航スケジュールをおしつけて利潤追求を図ってきました。

誇りをもって働くために…

産業それぞれに果たすべき役割があります。交通運輸産業は、安全確実に人や物を目的地まで運ぶことです。損保産業では、顧客が必要とする補償を的確に勧め、事故が起こったら専門家の視点からの確なアドバイス・対応を行い、スムーズな解決に結びつけることが求められています。

そのような体制を整えるには、十分な経験を持った要員を持ち、かつ、余裕のある要員配置が必要です。そんな体制を整えることが企業の、そして経営者の責務のほうです。

なんとしても変えましょう！

私たちはこの産業と会社が、あるべき誇れる姿になってほしいと願って、「小畑さんの職場復帰を実現する会」の運動を進めています。

ご理解とご支援をお願いいたします。